



令和元年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【星が丘地区】

令和2年3月31日現在

団体名	事業等の名称	事業の概要 (申請時)			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1 星が丘地区ふれあいフェスティバル実行委員会	星が丘地区ふれあいフェスティバル	過去実施したフェスティバルを通じて、地域内における団体間の交流が深まり、団体の活動も地域に認知されてきているが、各種団体の加入促進について十分に周知できていない状況にある。近年の来場者数は4,000人程であり、地域のイベントとして定着してきており、継続することでさらなる活性化、及び各種団体加入促進につながるものと思われる。	地域の団体が協力して大きなイベントを開催することで絆をさらに深め、来場者に団体の活動をPRすることで加入促進し、地域の活性化につなげる。	地域で活動している諸団体が協力し、星が丘地区ふれあいフェスティバルを開催する。 <日時> 令和元年10月27日(日) 午前10時から午後3時まで <会場> 星が丘小学校校庭 <内容> ・各種団体による活動紹介 ・各種団体の加入促進 ・各種団体による模擬店 ・ステージイベントの実施(地域内の小学校・保育園、活動団体等) ・アトラクションの実施(抽選会、じゃんけん大会、スタンプラリー、組紐、似顔絵、缶バッジ等)	R1.7.16	590,000	295,000	295,000
2 星が丘カルタを作成する会	やさしいっばい星が丘カルタ作成事業	平成30年度に星が丘地域の歴史や最近の情報や話題をまとめたカルタを400部作成した。「カルタを使っています」や「地域を知ることができてよかった」といった声や「このカルタを欲しい」という声も多くある。	苦労して作成したカルタでもあり、子どもに限らず、高齢者の介護予防に資する活動に繋がるものとして、携帯できる絵本という形に編集し、より多くの人に触れてもらうことにより、星が丘地域の歩みや現在の姿を知ってもらい、星が丘地域を愛する心とふるさと意識の醸成に繋げる。	平成30年度に作成したカルタを編集し、小冊子を作成する。 (18cm×11cmの冊子:1000部) ・500部を公民館等の公共施設や近隣の幼稚園、保育園、小中学校、自治会、子ども会、老人会、高齢者支援センター等団体に無料配布する。 ・500部を地区ふれあいフェスティバルや地域が開催する事業等で単価100円で有料配布し、活用してもらう。	R1.7.16	565,000	515,000	515,000
3 子どもの地域活動への参加を進める会	中学生以上の子どもの地域活動参加促進事業	・中学生以上の子どもは地域活動へほとんど参加していない。 ・若い世代の地域における公共的な活動の担い手が不足している。 ・学校や部活動、家庭以外での中学生の居場所が少ない。	・子どもの頃から継続的に地域活動に参加し地域に親しむことで、次世代の担い手に成長してもらう。 ・役割を与え地域に貢献しているという意識を持たせることで、学校や家庭以外の中学生の居場所をつくる。	地域のイベントでUVレジンアクセサリーの模擬店を出店し、活動のPRと事業への参加者を募る。 <参加イベント> ・10月27日(日)の星が丘地区ふれあいフェスティバル ・2月29日(土)、3月1日(日)の公民館まつり 12月に公民館で子どもたちが主体となったクリスマスイルミネーションを実施する。地域情報紙等でイベントの周知を行う。 実施期間:12月1日(日)~25日(水)17時~22時	R1.9.18	220,000	220,000	220,000
4 地域の高齢者の生活を考える会	緊急時安心サポート事業	・H29に高齢者を対象とした救急カードを作成し1,200枚配布した。しかし急病による緊急対応は高齢者に限ったことではなく誰にでも起こりうることである。 ・「急病による救急対応」の際に個人の特定、医療情報、日ごろの状況が分からないために適切な対応を受けられないことがある	・地域住民が急病による救急対応や道に迷う等で保護された際に、適切な対応を受けることができる。 ・地域住民が住み慣れた地域で安心した生活を続けることができる。	・救急カードを作成し、自治会を通じて全戸配布する。(4600枚) ・地域情報紙や各団体(PTA、子ども会、学校、敬老会等)を通じて周知し、希望者に随時配布する。(1,400枚)	R2.1.17	168,000	168,000	168,000

団体名	事業等の名称	事業の概要(申請時)			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
5 地域の高齢者の生活を考える会	見守りサポーター養成講座事業	<p>・高齢化の進行や一人暮らしや高齢者世帯の増加。そのような人たちの中には地域や近所との関係が希薄な人も多く、生活の状況がわからない。そのため、実際に星が丘地区でも在宅死や瀕死の状態で見発見されることがある。</p> <p>・地域の中で孤独死防止(早期発見や直前での救急対応)を課題として検討を重ねてきた。その中で地域住民による「見守り」の必要性があると考えている。</p> <p>・地域住民による「見守り体制の推進」を目指しているが、地域住民の意識や考え方にも差があり、現時点で見守り体制の構築は難しいとの意見もある。まずは地域住民に「地域全体で見守りをしていく」という意識付けが必要と考える。</p>	<p>・見守りサポーター講座を実施し地域住民による見守りの必要性の理解を図る。</p> <p>・見守りの考え方やポイントを伝えることで地域住民による「ゆるやかな見守り」の意識付けを行い、孤独死防止に繋げる。</p> <p>・見守りを通じて日ごころからの挨拶など地域住民同士の関わりの強化にも繋がると考える。</p>	<p>・「見守りサポーター講座」の冊子、缶バッジの作成を行い、高齢者支援センターが講師として「見守りサポーター講座」を実施。講座終了後には、サポーターの証であり見守り人の目印となる缶バッジを配布し、日頃より身に着けることで意識付けを行う。</p> <p>・講座の対象者について、まずは老人会やサロン、いきいき百歳体操実施団体など的高齢者を対象とした集まりや事業など高齢者への支援に対して理解があると考えられる団体へ実施。そこからさまざまな年代の地域住民を対象とし、地区全体へ広めていく。</p>	R2.1.17	306,000	306,000	306,000
- 相模原市自治会連合会中央区連絡会	中央区振り込め詐欺対策事業 9地区合同事業	<p>高齢者をねらった振り込め詐欺被害が全国的な課題となる中、中央区内でも被害が多発している。平成30年度には、相模原市自治会連合会中央区連絡会として、振り込め詐欺防止ステッカーによる高齢者向けの詐欺対策事業を実施したところだが、令和元年も被害件数は増加しており、危機的な状況にある。最近、警察官や銀行、市役所の職員等に成りすまして、暗証番号を聞き出し、キャッシュカードをだまし取る被害も多発していることから、地域の防犯意識の高揚や犯罪を寄せ付けない住環境の創出が求められる。</p>	<p>被害の中心となっている高齢者に向けた啓発だけでなく、詐欺被害防止という目線で周りの高齢者を気にかける地域づくりのため、防犯啓発プレートを作成・掲出し、周知・啓発する。</p>	<p>・防犯啓発プレートの作成 サイズ:縦30cm×横23cm(角)、厚み0.5mm 材質:PVC(白)、PETコート 数量:4,000枚</p> <p>・防犯啓発プレートの掲出 自治会員宅など、地区内で見やすい場所に掲出する(掲出場所は各地区の判断によるが、電柱への掲出は決して行わない)。</p>	R2.1.27	1,778,000	1,778,000	1,778,000
						1,849,000	1,504,000	1,504,000

9地区合同事業以外の合計額